

■ 令和6年度 第1回 秋葉区自治協議会

日時：令和6年4月23日（火）午後1時30分

会場：秋葉区役所6階 601・602会議室

1 開会

（中島会長）

皆さん、こんにちは。令和6年度第1回目となる自治協議会本会議をこれより開催いたします。

花とみどりのまち秋葉区でございます。桜が散りますと風薫る5月、秋葉区はこれからサツキ、そしてツツジが見頃を迎えます。

今年度、秋葉区自治協議会は第9期の2年目となります。新しく4人の委員を迎えまして、また事務局も新たな顔ぶれが加わりまして、本当に背筋が伸びる思いでございます。未来志向の組織として、活動の一層の充実を図っていくために交流と発信を心がけて会長職を担っていきます。昨年度に引き続き、どうぞよろしくお願いいたします。

さて、本日は中原八一市長にお越しいただいております。本日はご多用のところ、秋葉区自治協議会本会議にご出席を賜りまして、誠にありがとうございます。自治協議会委員を代表しまして、厚く御礼を申し上げます。区民主導のまちづくりに取り組む秋葉区自治協議会ですが、大変熱量のある、また出力の高い、もう8区ある中で1番だと私は自負して思っているところでございます。今日は、そんな我々熱い委員の思いをぜひ市長には受け止めていただきまして、実りある意見の交換ができれば幸いです。どうぞよろしくお願いいたします。

そして、今日は新潟日報社様、そしてエフエム新津様から取材の協力依頼をいただいております。写真撮影、録音、録画など許可してよろしいかお諮りしたいと思います。皆さんよろしいでしょうか。

（「異議なし」の声）

異議なしとの声が上がりましたので、許可することにいたします。

それでは、開会の挨拶を第2部会の青木委員からお願いいたします。

（青木委員）

皆さん、こんにちは。第2部会の金津コミ協、青木と申します。中原市長、本日はご苦労さまでございます。

年度始めの会議、この会議で挨拶の機会をいただきまして、本当に今年、偶然とはい

え、私のすばらしい当たり年かなと思います。そんなことでまた頑張っていきたいなと思ひまして、それでは開会に当たりまして2点ほど、まず1点目、お願い、2点目、私の思ひ、これについてちょっと述べさせていただきます。

まず、お願いでございます。このたび4名の方が替わられ、新しく仲間入りしていただきました。よろしくお願ひいたします。この自治協議会ってご存じかと思うんですけど、住民自治につきまして皆さんからいろいろ意見を出していただいて、住民のために働く機関と、そういうふうになっております。そのために、災害に強く、笑顔あふれる我が秋葉区をつくるべく、皆さんが日頃思っていること、この熱い思ひを忌憚なく、過去のしがらみにとらわれることなく、大いに熱弁を振るって議論していただきたい、そんなふうに思っております。これが第1点目でございます。

第2点目、私の思ひでございます。今年、1月、元旦早々すごい地震、甚大なのがありました。新潟市で約1万7,000棟、秋葉区におきましては約600棟近い甚大な被害でございました。今年、特に新潟地震から60年、中越地震から20年、そんな節目の年に当たります。特に私が今年期待しているのは、今年60年に1度、きのえたつの年でございませう。ことわざによれば、今年きのえたつは竜が空に昇るごとく、活力ある縁起のよい年と言われております。このことわざによるように、秋葉区民3万1,077世帯、それと7万4,313名の秋葉区民の皆様、それと本日出席されました29名の傍聴の皆様、それとご家族の方々、この方々が昨日に勝る今日、今日よりもあしたもっと幸せで笑顔あふれる秋葉区をつくっていきなさいと、そんなふう願っております。

若干長くなりましたけれども、以上をもちまして令和6年度第1回秋葉区自治協議会の開会の挨拶に代えさせていただきます。

以上でございます。

(中島会長)

青木部会長、ありがとうございます。引き締まる思ひで受け止めました。ありがとうございます。

2 市長との懇談会

(中島会長)

それでは、引き続き次第に沿って進めてまいります。本日中原市長がお見えになられております。次第2は「市長との懇談会」となります。中原市長から新潟市令和6年度当初予算についてご説明をいただきます。その後委員の皆様と意見交換を行います。市長は、2時半までの出席となります。ご承知おきください。なお、意見交換につきまして

は、本日区の自治協議会委員との懇談の場であるという趣旨を踏まえまして、ご発言は委員の方に限らせていただきます。

それでは、中原市長、よろしくお願いします。

(中原市長)

皆さん、こんにちは。市長の中原でございます。日増しに暖かくなってまいりましたけれども、今日は秋葉区自治協議会の総会の前時間をいただきまして、懇談の時間をいただきまして大変ありがとうございます。中島会長をはじめ、委員の皆様には日頃から地域における協働の要として地域の様々な課題にご尽力をいただいておりますことを心から感謝を申し上げます。

1月1日の日に、夕方能登半島地震に襲われまして、間もなく4か月がたとうとしております。新年度気持ちを引き締め、市役所一丸となって一日も早い住宅再建と復興に取り組んでまいりたいと考えております。

さて、本日は地震を含め、今年度予算などについて皆様方に少し話をさせていただきます。それでは、これより着座にて失礼をいたします。資料に基づいて説明をさせていただきますので、資料の1ページを御覧ください。地震の発生から3か月半が経過しました。この地震では、ご承知のように液状化現象によって、特に道路の隆起や陥没、建物の傾斜や沈下などの被害が多く、大変深刻で、特に西区の砂丘沿いや川沿い、港南区や中央区の一部で被害が集中的に発生しております。この被害地域と国土交通省の液状化しやすいマップという図がございますけれども、この危険地域と重なっており、想定地域の一部でこのたびの地震が実際起こったということです。

2ページです。発災後これまで、生活の再建に向けた応急的な対策に取り組んでまいりました。現在は、応急復旧から本格復旧への段階に移行しつつあります。そこで、今後の復旧、復興に向けた施策を総合的かつ計画的に進めるために、4月の1日の日に令和6年能登半島地震新潟市復旧・復興本部を設置いたしました。住宅再建の見通しが立たない方や、支援を受ける手続などが分からないという方もいらっしゃいます。取り残される世帯が生じないように、生活再建支援チームを立ち上げ、被災された方に寄り添ってきめ細やかな支援を行ってまいります。

3ページです。具体的な支援策となります。液状化により非常に多くの家屋被害などが発生し、また被害の状況も様々であります。そうしたことから、地震発生直後から国や県の支援策では支援の手が届かないところに令和6年1月に補正予算を組み、本市独自の支援制度を用意してまいりました。特に被害は住宅だけではなく、車庫やカーポート、門扉などにも被害が出ましたので、その復旧に対する支援策や、また傾いた家を直した

めの地盤改良への支援、私道の復旧への全額助成など、被害実態に応じた支援策を実施しています。先ほどご説明しました生活再建支援チームを中心に、これらの支援制度と被災者をしっかりとつなぎ、被災者に生活再建の見通しを持っていただけるよう取り組んでまいります。

余談ですけれども、今回の災害対応の緊急補正予算を組みましたが、財源には75億円弱の基金を活用いたしました。今回の対応に当たっては、103億円まで積み増していた基金が大いに役立ったと思っています。

4 ページです。令和4年度新年度予算は4,185億円となりました。令和6年度は、先ほど令和5年度の補正予算と合わせ、15か月予算として一体的に編成し、災害からの復旧に切れ目なく取り組みながら、御覧の3つの力点をつくったところです。安心・安全、活力・交流、子育て・教育によって選ばれる都市新潟市の実現に向け、まちづくりを前進させていきたいと考えております。予算は過去最大の規模で、7年連続の収支均衡予算とすることができました。

5 ページです。ここからは、3つの力点ごとにお話しさせていただきます。1つ目は、安心・安全ということで市民生活や経済活動の土台になる大事な部分ですので、しっかりと取組を進め、災害に強い安心して暮らせる新潟市を目指していきたいと考えています。地震関連の補正予算に加え、今年度予算ではこのたびの地震で浮かび上がってきた課題に取り組むことで防災力を高めていきたいと思っています。

6 ページです。今回まずは被害を拡大させた要因の液状化現象について、専門家などによる調査、分析を行っていきます。この調査を基に、街区単位での液状化対策につなげていきたいと考えております。また、避難所の関係では、鍵を持っている職員の到着が遅れまして、ご心配をおかけしたという事例も発生しましたので、津波速度が速い沿岸部などの避難所において、津波警報と連動して鍵が取り出せるキーボックスの導入なども進めていきます。また、このたびの地震では、改めて災害への備えの重要性と国土強靱化を推進する必要性を強く認識させられましたので、市民の皆様の防災意識がより一層高められるよう取り組んでいきます。

7 ページです。防災対策のほかにも、市民生活を支える機能の向上ということで、まずは市民の命と健康を支える救急活動について、現在は受入先の病院が決まるまで救急車から何回も病院に電話をしておりますが、ICT技術によって複数の病院への照会を一斉に行うシステムを導入します。さらに、バス交通については、ドライバー不足が大変深刻な状況ですが、年末に新潟交通と協定を締結しましたので、新潟交通と市民の皆さんとが一緒になって取り組み、路線バスネットワークの維持に向けて頑張ってまいります。

8 ページです。2 つ目の力点、活力・交流では、人が行き交い、活力あふれる新潟市に向け取り組んでいきます。ご存じのとおり、全国的に人口減少が進んでおり、本市でも人口は2005年の81万人がピークで、以降減少局面に入ってきています。将来推計としては、新潟市の2020年の人口78万人が、2050年には約61万人と17万人減少いたします。特にまちの活力に重要な15歳から64歳の生産年齢人口の減少がグラフの青色の部分になりますが大きく、2020年から2050年までに15万人も減少する予測となっています。この15万人という人口ですが、今の西区の人口と同じということで、30年間で西区と同じ規模の労働力、人口が失われるということは非常に厳しい予測であります。このような状況の中で、いかに私たちの社会経済の活力を維持、向上するかということですが、人口の減少のスピードを遅くしていくことが重要だと考えております。

9 ページです。この急速な少子高齢化と人口減少が要因となり、既に人手不足、人材不足が慢性化、深刻化しております。さらに、2024年問題も重なり、運送業や医療分野などでは今後影響が大きくなるのではと懸念されています。これに対して、新潟市としては地域経済の活力向上に、1 つは人を呼び込む、2 つ目は人を育てる、3 つ目は人を活かすの3 つの柱で取り組んで対応していきたくと考えております。

10 ページです。対応の1 つ目では、企業誘致のさらなる強化や移住、定住への取組によって人を呼び込んでいきます。企業誘致の取組としては、にいがた2 kmの新設ビルにIT企業の進出が昨年度は過去最高となる22社の進出が決まり、800人を超える雇用を生み出しました。にいがた2 kmをスタートしてからの3年間では実に46社、約2,000人の雇用を生み出し、一定の成果が出ています。また、市内8区に整備された工業団地60ヘクタールについては、現時点で9割近くが決定済みで、4地区は完売となっています。コロナ禍から経済状況は回復傾向にあり、今後需要もさらに上向いていくと考えており、新たな工業用地造成に向け準備に取りかかっています。令和6年度は、国内5,000社にアンケート調査を行い、需要が確認できれば令和7年度に開発提案の募集を行いたいと考えております。

11 ページです。対応の2 つ目では、デジタル化による競争力強化を支える人材育成への支援などによって人を育てていきます。今後人手不足が深刻さを増すと予測されている中で、デジタル技術を活用することによって業務の効率化、人手不足の解消、企業に新たな価値を生み出すことが期待できます。一方で、市内企業でデジタル化が遅れている現状がありますし、デジタル化をどう進めればいいのか分からないといった声もいただきますので、新潟市では企業のデジタル人材の育成に対する支援や企業の採用活動を後押ししてまいります。

12ページです。対応の3つ目では、創業や成長分野への挑戦に人を活かすための取組です。帝国データバンクが行った調査(2022年)によれば、県内企業で黒字のまま廃業した企業は6割で、また後継者がいない企業が約5割とのこと。企業として価値が十分にあるにもかかわらず廃業せざるを得ない状況で、新潟市といたしましてもこれを何とか支援できないかと考えました。そこで、昨年度から企業が〇〇会社という名前をなかなか明らかにしたくないという企業もございますので、名前を明らかにして後継者を求めるオープンネームというやり方で事業承継を推進する事業を開始したところです。昨年度は約5,000の事業者アンケートを行い、事業承継につながった例も出てきております。まずは、市内企業の皆さんからアンケートをきっかけに事業承継についてご検討いただければと思っており、今年度以降もさらにアンケートの数を増やし、事業承継を後押ししていきたいと考えております。ほかにもフルタイムでの勤務が難しい子育てや介護などに取り組んでいらっしゃる方と、飲食業や宿泊業などで短時間の労働力が不足している業界をマッチングするサービスにも新たにに取り組んでまいります。

13ページです。農家の高齢化の進展で後継ぎ問題が深刻な中、後を継ごうと思ってくれた農家の後継ぎへの支援を行い、担い手の確保に取り組んでいきます。これまでは、新潟市、農家の後継者という視点、これがなくて、農家の後継者に対して支援を行ってきませんでした。地域経済を活性化していくためには、本市の豊かな田園資源を生かしたもうかる農業の実現に取り組んでいきます。また、全国トップクラスの本市の農業を持続可能なものにするため、より効率的に営農できるよう、簡単な圃場整備、これがありますけれども、そうしたものや農地集約化に係る経費の補助などを始めます。

14ページです。約60年ぶりとなる新潟駅の改築をずっと進めてまいりましたが、ようやく3月31日に新しいバスターミナルがスタートし、駅を拠点に新たなバス路線もでき、駅の南北の通行が可能になりました。まだ集計段階ですが、このバスターミナルの完成によってバス利用者数も上向いているようで、交通結節点としての機能が一層充実し、大変うれしく思っているところです。ここに来て、市民の皆さんからもこの新潟駅周辺整備事業、新潟市が一大プロジェクトとして進めてまいりましたが、この事業の意味や目的が実感してもらえるような形になってきたと感じております。また、駅ビル2階には3月1日に観光案内センターをオープンいたしました。そして、4月25日、2日後でしょうか、いよいよグランドオープンとなります。新たなにぎわいが生まれ、新潟市全体にいい影響が出てくることを期待しております。さらに、鳥屋野潟南部でも倉庫型商業店舗を核とした開発が予定されており、今後人の流れが変わり、新潟の活力向上に向けた大きな転換点になることを期待しております。

次に、15ページです。令和6年1月1日に能登半島地震が発生いたしました。一方で明るい兆しも大変多くあります。佐渡の金山については、花角知事と佐渡の渡辺市長が3月末にパリを訪問して、ユネスコ大使に直接文化遺産としての価値や地元の熱意を伝えてきたとのことですので、今年こそは世界文化遺産登録が実現してほしいと考えております。新潟市には佐渡航路がありますので、佐渡市との連携をさらに密にして、観光面で一緒に盛り上げていきたいと考えております。ほかにもアルビレックス新潟が引き続きJ1の舞台で戦ってまいりますし、野球のオイシックス新潟アルビレックス・ベースボール・クラブが新たにプロ野球NPBイースタンリーグの公式戦に参加いたします。また、空の便では国際線の運行再開、1月にはトキエアが就航してくれました。また、コロナ禍で止まっておりましたクルーズ船も昨年度12回、今年度も現時点で8回の寄港が決まっております。令和6年は、観光やスポーツ面で明るい話題が多くありますので、新潟市の交流人口の拡大にしっかりつなげていきたいと考えております。

16ページです。ここからは、3つ目の力点、子育て・教育です。市が行いましたアンケート調査では、理想の人数の子供が持てない理由として、多くの方が経済的、精神的な負担の軽減や、仕事と子育ての両立の難しさを挙げております。子育て支援は、少子化対策としても、また若い世代から新潟に住んでもらうためにも大変重要でありますので、子育て世代のニーズに応じた取組をさらに充実させていきたいと思っております。

17ページです。子育て支援については、市長就任から力を入れて取り組んでまいりました。1期目には、こども医療費助成を2度拡充し、対象を小学校6年生から高校3年生までとするなど大変喜ばれております。そして、今年度からは妊産婦の医療費助成の所得制限を撤廃しました。こども医療費助成と同じ内容で通院が530円、薬代が無料ということで妊産婦の医療費を助成するもので、所得制限の撤廃で、一昨年度の実績が19人と僅かだったものが、昨年度は7,000人を超え、飛躍的に利用していただいております。さらに、産後2週間と産後1か月に行う産婦健診の受診費用を助成する予定です。これで妊娠から出産、高校3年生までの医療費助成について切れ目なく支援ができるようになります。また、出産後の心身の不調や子育てへの不安を解消するために、医療機関で子供を見てもらいながらお母さんから心身ともにリラックスをしてもらう産後ケアの自己負担額を大幅に引き下げ、昨年は一昨年の3倍以上使っていただいております。今年度は、双子や三つ子などの多胎児の支援を拡充し、より利用しやすくして出産後の不安の解消につなげていきたいと考えております。

18ページです。教育の面です。教育委員会のほうでは、中学校での全員給食化を実施します。現在給食が出る中学校は市内57校のうち29校で、それ以外の中学校は弁当の持参

か民間のランチを注文する方式となっております。令和7年8月から全員給食化、すなわち全ての中学校で生徒全員が給食を取っていただくこととなります。しっかりと準備を進め、全ての生徒に温かく栄養バランスのよい給食を提供できるようにしたいと思います。また、特別支援教育や通級指導教室についても各学校に対するサポートを充実させるなど、子供たちの健やかな成長を後押ししていきます。

19ページをお願いします。新潟市でも民間企業に対する男性の育休取得への支援やワーク・ライフ・バランスに配慮した働きやすい職場づくりへの表彰などを通じて、働き方改革を応援しております。そうした取組を通じて、市民一人一人が住んでよかった、働いてよかったと思っただけの新潟市につながっていくと思っております。

20ページです。ここで興味深いデータを紹介させていただきます。国交省が発表しているものです。左上の表は、2人以上の勤労世帯の所得の上位40%から60%までのいわゆる中間層所得の経済的な豊かさを比較したものです。可処分所得、すなわち手取り収入から食費や住居費、光熱水費といった基礎支出を引いて、さらに通勤に係る時間をコストとして捉え、それも収入から差し引いたもので経済的な余力を表しております。経済面で最も豊かな都道府県はと尋ねれば、皆さんが思い浮かぶのは東京だというふうに思いますが、平均的な収入の中間層世帯で見ますと、表のように東京が全国最下位の47位になってしまっております。東京は、世帯全体で見ると年収は高いのだと思いますが、生活費も高く、結果的に余暇などに使える経済的な余力が残らないということだと思います。一方で、新潟県は全国7位ということで、東京の13万5,000円と比較して10万円近くも上回っており、経済的な豊かさがあることがデータから明らかになっております。新潟市は都市と田園が調和し、暮らしやすい点がほかにはない強みだと思っておりますが、経済的な豊かさもち合わせているという点はもっとアピールしていきたいと思っております。

最後に、これまで地元の皆様から国道403号線の4車線化ということ強く要望されてまいりました。新潟中央環状線を整備しておりますので、その見通しがある程度ついた段階で403号線の事業着手については検討していくというふうに回答させていただいてまいりましたが、少し動きが出始めましたので、皆さんに報告をさせていただきましたというふうに思います。もちろん403号線の渋滞につきましては、新潟市としては十分認識しております。昨年度から今年度にかけて、現在現地調査を実施しておりますので、この調査を踏まえて具体的な整備箇所については検討してまいりますけれども、来年度以降この403号線の4車線化に向けて事業化ができるように取り組んでいきたいというふうに考えております。

以上、大変早足となりましたけれども、令和6年度の予算の大ざっぱな内容についてお話をさせていただきました。新潟市としましては、1月1日に発生しました地震からの復旧、復興、一日も早く平穏な日常に取り戻せるよう、被災された方々の生活再建に全力を尽くしてまいりたいと考えております。また、先ほども申し上げましたが、今年度は都心軸が生まれ変わるまちづくりの転換期でもあり、交流人口拡大のチャンスでもあります。今後急速に進む少子高齢化、人口減少社会の対応として経済活力を生み出すとともに、子供から高齢者まで笑顔あふれる新潟市を築いていくことで、特に流出が大きい若い世代からこのまちを選んでもらうことが重要だというふうに認識しております。まちづくりは、行政だけでは行うことはできません。ぜひ自治協議会の皆様と連携しながら、新潟の活力を生み出し、選ばれる都市新潟市を実現していきたいと考えておりますので、引き続き市政へのご支援、ご協力をお願い申し上げます。

私からの説明は以上となります。皆様からご清聴いただきまして、大変ありがとうございました。

(中島会長)

中原市長、ありがとうございました。

それでは、続きまして長崎区長より秋葉区における令和6年度の主な取組についてご説明をお願いいたします。

(区 長)

それでは、私から秋葉区の新年度の取組をご紹介します。

同じ資料の30ページをお開きください。最初に、環境に配慮した潤いとやすらぎのあるまちについてです。秋葉公園魅力アップとしまして、こちらは新規の事業になります。里山にある自然を生かして公園の魅力を高めるため、秋葉公園のにぎわいゾーンの支障木、特に高過ぎる木になりますけれども、伐採や間伐を行って、眺望や見通しを確保いたします。また、伐採した木材の一部を使いまして、ベンチやウッドチップなどを試行的に活用の検討に入ります。

次に、公共施設のZEB関連調査です。こちらは本庁予算になりますけれども、脱炭素、CO₂削減を目標に、この秋葉区役所、昭和63年に建築された当時から使用している空調設備ですとか冷温水器の性能が落ちておりまして、設備を更新、取り替えることでエネルギー使用量及びCO₂がどれだけ削減できるかの現況性能調査を行います。

次に、廃止石油坑井封鎖事業です。こちらは引き続きの事業になりますが、小口、朝日地区の廃止石油坑井、既に石油掘削をしていない井戸になりますが、湧出している石油が河川へ流出するのを防止するために封鎖する坑井、井戸の周辺地域の測量及び工事の

施工法などの事前調査、重機の搬入による必要な作業用道路の拡幅工事を今年度行います。

次に、やさしさがあふれる楽しく元気なまちについてです。一番下の絵にあります、子ども・若者公共交通乗車促進事業です。こちらは、新規事業としまして区内を運行する対象路線バス、区バスと下新線、そして金津線、3つの路線の学生の運賃を割引する社会実験を実施します。乗車体験を行っていただく中から継続した利用につなげるように取り組みますし、併せてアンケート調査を行って、区内の生活交通の改善に寄与することを目的に実施をいたします。なお、区をまたぐ新潟交通観光の路線バスにつきましては、先ほどの市長の説明の中にもありましたけれども、新潟市と新潟交通との協定締結によりまして、中学生、高校生に3,000円分の乗車チケットが配布される予定になっております。

続いて、31ページ、裏面をお開きください。一番上の新規事業としまして、獣害対策になります。近年野生獣の個体数が増加していることが推測されております。里山周辺の民家敷地内での目撃、あるいは農作物の被害が増えていることから、今回本庁の予算としまして捕獲事業の実効性を高める機材の導入ですとか、人と野生獣のすみ分けを図る緩衝帯を設ける整備費用等を助成する事業です。

次に、歴史と個性を活かすまち、アキハ「鉄道物語」です。こちらの事業では、引き続き新津駅東口の観光案内所を運営します。また、区民や商店街などと連携を図りながら鉄道に関連した取組を実施して、町なかの活性化と交流人口の拡大につなげる事業です。今年、SLばんえつ物語号が復活して25周年の年に当たりまして、記念事業として企画を来週の4月の29日、祝日になりますけれども、新津駅で実施をいたします。

次に、可能性を生み出し・育て・活かすまちのアキハ人材育成です。これまでアキハスムプロジェクトで実施してきました事業の中から人材育成に特化し、事業化したものです。秋葉区の教育懇談会も、この事業の中で実施をしております。

最後に、区の自治協議会の提案事業になります。きらめき未来プロジェクトとしまして、2つ、きらめきサポートプロジェクトと昨年実施しました未来ビジョン、こちらの策定支援を統合したものです。昨年度は、コミュニティ未来ビジョンで策定したアクションプランがありますので、今年度はそれが実現できるよう支援をする内容にしております。

以上、簡単ではありますが、秋葉区の新年度の取組を説明させていただきました。

(中島会長)

長崎区長、ありがとうございます。

それでは、引き続いて意見交換に移ります。市長この次のご予定があるということで、30分までいっちゃるということです。できるだけ多くの委員からご発言をいただきたいと思います。なので、できればご意見は簡潔にお願いをいたします。

それでは、まず事前にご意見をいただいております坂口委員、お願いいたします。
(坂口委員)

阿賀浦コミュニティ協議会の坂口です。市長、どうも今日はご苦勞さまです。よろしく
お願いいたします。

今ご説明でもありました、昨年度実施した未来ビジョンのアクションプランを展開して
いきたいなということで、そこにおきまして課題2つほどご質問させていただければ
と思います。

まず、私どもの新金沢保育園が閉園に今年なりました。その利活用ということで1
つ質問させていただきます。まず、新潟市の公共施設の再建案で今年41施設の中の一つ
に新津の第五地域施設の新金沢保育園がありました。この園は、昭和46年から約半世紀
にわたって多くの園児たちが巣立ってきましたけれども、今年3月28日に閉園式を行いま
して、今年度から閉園になったわけです。コミ協とか地元といたしましては、長きにわ
たって地元で愛されてきましたこの施設を地域の住民の活動の拠点とか交流の場として
活用していただきたいなと思っているところです。

昨年度12月にこども家庭庁がこども基本法に基づくこども大綱を閣議決定したという
ニュースがありました。こどもまんなか社会の実現に向けまして、こども未来戦略MA
Pというのを作成しております。この中で、こども・若者の安全・安心な居場所づくりと
いうのを挙げております。こどもの居場所づくりに関する指針を同時に発表しています。
そして、基本的な視点として官民連携、協働で取り組むことが必要だとうたってありま
した。それから、一方学校のクラブ活動とか部活動に関しましては、令和8年から休日と
か4時45分以降学校が利用できなくなるという状況でもあります。

このような時代の環境の中に、新金沢保育園を子供の居場所づくりに活用できないか
ということなんです。現施設を活用するに当たりましては、駐車場など多目的な活用の
工夫などが必要です。建物改修などの必要もあると思います。地元としては、耐震設備が
整っているこの施設を有効に活用できればと思っているんですが、今後官民協働として
の利活用が可能なのか、市としてどのようにお考えかお聞かせいただければと思います。

それから、2つ目なんです、旧阿賀小学校跡地の利用と、今新潟にあります風の館の
維持、保全について併せてお聞かせいただければと思います。先ほども予算の説明にも
ございました。私も4月の市報にいがたでも見ているんですが、令和6年度の取組の特

集しておりまして、先ほどありました安心・安全、子育て・教育、活力・交流を展開する中で、今年は人流が回復していけると、各区ならではの魅力を発信することで交流人口の拡大と地域経済の活性化を進めていくということを拝見しております。秋葉区は、里山とか観光、鉄道、食、園芸、田園、歴史文化など、たくさんの魅力のある区だと私は思っているんですが、ぜひ各区においても人や物流が互いに行き来するように支援していただきたいと思うんです。交流ということなんで、直流ではなくて交流を目指したいなということをおっしゃっています。

そこで、地域の歴史文化の継承についてお聞かせいただきたいんですが、阿賀浦コミ協では地域の歴史を守り伝える活動として、坂口安吾が眠る地として安吾をテーマに広報活動を現在展開しています。今年度4月発行の新津観光協会の「新津まちあるき歴史探訪」にもあるんですが、「坂口家と文豪坂口安吾の眠る地を巡る」と題しまして、新たなコースを登録していただきました。ほかに、区内には「あちらこちらに命がけ」とか図書館裏の「桜の森の満開の下」という文学碑、それから交流のありました檀一雄の句碑など、坂口安吾に関する史跡などがたくさんあります。また、安吾に関する資料も新津美術館に保管されていると聞いています。一方、現在安吾館として旧市長公舎、風の館ですね、これがありますけれども、老朽化が進んでおりまして、今年年初の能登半島地震で新潟市で被災がありましたけれども、幸い市長公舎においては被災はなかったことを聞いておりますが、耐震設備が今整っていないので、現在休止をしていると聞いております。

そこで、風の館の今後の移転計画とか、旧阿賀小学校、現在阿賀浦地区にあるんですが、阿賀小学校の跡地の利活用などがこれにできないでしょうか。また、今後検討いただけないでしょうか。その場合、相談先とか今後の計画などもしございましたら、併せましてお聞かせいただければと思っております。

以上2点、よろしくお願いたします。

(中島会長)

坂口委員、ありがとうございます。2つお尋ねがございました。1つ目が、新金沢保育園の利活用についてのお考えを聞かせてくださいということ、2つ目が秋葉区ゆかりの人物ですね、坂口安吾の広報活動として風の館の移転について、今後何かお考えがあればというようなことで2点ございました。

よろしいですか、市長。

(中原市長)

どうもありがとうございます。漏れなくお答えできるかどうか分かりませんが、1点目の新金沢保育園の利活用についてですが、近隣に新しく私立保育園が建設されたこ

とを受けまして、市の保育園配置計画に基づいて、お話しになりましたように、先月の3月31日に約53年の歴史に幕を下ろしたと聞いております。跡地について、まず市役所の内部の話ですが、利用希望調査をしましたが、希望がなく、現在のところ市としての施設跡地を活用する計画はありません。一方、旧園舎は約6年前に耐震改修を行っておりますので、今後の活用を検討できる状況であると認識しております。

委員からは、学童保育としての活用や他世代交流の施設として活用してはというご提案をいただき、大変ありがとうございました。施設の活用については、委員が所属されておりますコミ協のほかにも、町内会などからもお問合せをいただいていると聞いております。今後区役所では、地元の皆様を中心に活用方法の検討、調整を進めていきたいと考えております。ぜひご提案の詳細や利活用に当たっての課題などについて区役所にお聞かせいただき、地域と一緒に進めていきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願ひします。

2点目ですが、坂口さんは坂口安吾とご親戚でしょうか。

(坂口委員)

そんなに近くはないんですが、同じ系列になります。

(中原市長)

そうですか。ありがとうございます。それで、安吾の風の館が西大畑にあります。一部改修して、平成21年から安吾を顕彰する施設として活用してきました。このたび能登半島地震では、お話のとおり被害はありませんでしたけれども、耐久性、耐震性が基準に達していないということで、当面の間この館については公開を中止しております。現時点でこの風の館の移転の予定はありません。館で行ってきた事業については、当面の間市内の学校、各部施設への出張講座や、公共施設、民間施設等のスタッフと連携した展示などを行っていく予定としております。コミ協にて企画展示や出張講座等を実施したいご意向がありましたら、ぜひご相談いただければというふうに思います。

また、ご提案のありました旧阿賀小学校跡地については、現在のところ市役所として使用の予定はございませんが、その土地の大部分が地域から市へ寄附していただいた土地ということですので、活用方法につきましてはご提案いただいた活用方法も含め、これも地域の皆様と相談をさせていただいて、よいものになるようにしていきたいというふうに思います。

ありがとうございました。

(坂口委員)

ありがとうございます。ぜひ検討のほうをよろしくお願ひいたします。

ありがとうございました。

(中島会長)

ありがとうございます。

それでは、青木委員、ございますか。はい、お願いします。

(青木委員)

すみません。ご苦労さまでございます。私のほうから御礼ということで2点申し上げたいと思います。

まず、1点目でございますけれども、公共交通に関しまして、都市交通政策課、この方がいろいろご苦労していただいたという御礼でございます。といいますのは、定期路線バス、これは金津線でございますけれども、本当にこの路線は収支率5%以下ということで、新潟市内でも劣悪の路線でございます。ここに多額のお金をつぎ込んでいるという現状を踏まえまして、何とか改善策ということでいろいろ政策課の方からご指導いただきました。その結果、アンケートを取ったり、あるいはいろいろな方法で地域のニーズを把握いたしました。それらを踏まえまして、4月1日から改善策が第一歩を踏み出しました。続きまして、6月1日から第二歩を実施する予定でございます。これは、いずれもこの結果、多分多くのお客が乗ってくるものと確信しております。これは、いずれも政策課の方が地域の方の目線に応じて適切、細かい指導のおかげと、そんな関係で地域の方を代表いたしまして1つ御礼申し上げます。ありがとうございます。

続きまして、御礼の2点目でございます。災害対応の御礼でございます。これは、1月の元旦の地震で新潟市では96世帯の全壊ということで、トータル1万6,737棟の被害、秋葉区におきましてはけが人はおりませんでしたけれども、全壊1世帯、590棟、こういう甚大な被害が発生いたしました。特にこれらの災害の対応に市の職員の方が不眠不休ご苦労してきて、大変ご苦労さまでございます。なお、避難所開設云々ということで当初トラブルあったとお聞きしましたので、この自治協議会の第2部会で検証いたしました。その結果、何点かこうしてほしいというのが出てきましたので、明後日、25日、市議員の方と一緒に防災局長さんそこへお邪魔して、お願いに上がる予定でございます。特によかったなと思いますのは、5月の10日、市民協働課主催によります全体の研修会を予定してございます。このとき防災に関するテーマの勉強会をやると、こんなことで、これを踏まえまして、新潟市は市長さんの陣頭指揮で防災に全市を挙げて取り組んでいるんだと、こういう姿勢が見られましてすばらしかったと思いますので、ありがたいと思っております。

以上でございます。

(中島会長)

ありがとうございます。お尋ねというよりは感謝の言葉ということで、1つ目が公共交通政策ですね、定期路線バス、2つ目が災害対応に関わっての御礼ということでございました。ありがとうございます。

もうあと数分しか残っておりませんが、1名様でしたらお受けできるかと思えます。せっかくの機会でございますので、このほかに委員の皆様でぜひ発言したいこと、また市長にお尋ねしたいこと等ありましたら挙手にてお願いをいたします。

じゃ、渡邊委員、手が挙がりましたんで、お願いします。

(渡邊委員)

ありがとうございます。渡邊と申します。日頃からご尽力いただきまして、ありがとうございます。私からは、1点、皆さんとも今日共有したいと思ひまして、はぐハグの報告書をお持ちしました。子育て女性の産後のレスパイトケアの事業を行わせていただいております。そこで質的調査を行わせていただきましたところ、現在の新潟市が行っている一時預かりの面で、金額が低価ではあるんですが、それが負担になって利用できない、あるいは手続上の負担感があつて利用できないという方がいらっしゃいました。厚生労働省のほうでは、産前産後のデイケアのガイドラインがありまして、医療機関以外でも民間への委託も可能というふうに書いてありますが、デイケアの民間委託というのがあんまり進んでおりません。乳児の死亡率というのが子供の死亡率の中で一番高く、生まれ育ったところ以外で子育てをしている方が今6から7割いらっしゃいます。そうしたところを踏まえると、一番リスクの高い産後ケアにお力を入れていただけるとありがたいなと思っております。不適切な養育を防止するためにも必要なことかなと思っております。

以上です。

(中島会長)

子育て支援に関わって、産後ケアについての意見、要望ということで発言がございました。こちらについて、市長、コメントございますでしょうか。

(中原市長)

ありがとうございました。しっかりとまたご意見を受け止めて、子育ての支援に充実を図っていきたいと思ひます。先ほどお話ししましたように、産後ケアの利用料金を大幅に下げて、妊産婦の皆さんから大変ご利用していただひて好評になっております。さらにまた今後議会からも様々なご意見をいただひておりますので、充実に向けて我々も努力してまいりたいというふうに思ひます。ありがとうございました。

(中島会長)

ありがとうございます。もっともっといろいろお話を聞きたい、発言したいといったところでございますが、残念ながら時間が来てしまいました。中原市長、本日は本当にお忙しい中、貴重なお時間をつくっていただきましてありがとうございました。本当に持続可能なまちづくりに向けて、この新潟市が未来志向で取り組んでいく姿勢が伝わってまいりました。またぜひ今後ともこのような対話、意見交換の場を設けていただければ幸いに存じます。本日はどうもありがとうございました。

(中原市長)

どうもありがとうございました。引き続きまたよろしく申し上げます。

(中島会長)

それでは、以上をもちまして次第の2「市長との懇談会」を終わります。

3 報告

(1) 部会活動報告

(中島会長)

それでは、次第の3に移ります。「部会活動報告」となります。今日全ての部会順繰りにではなくて、報告のある部会に限って挙手の上ご発言をお願いしたいと思います。いかがでしょうか。

はい、じゃ佐々木委員、お願いします。第3部会ですね。

(佐々木委員)

第3部会、佐々木です。先月部会が話がありましたので、ちょっとご報告をさせていただきたいと思います。

令和6年度の第3部会の事業計画についてなんですけれども、長崎区長のほうから提案のありました子供の居場所についての取組の検討を行わさせていただきました。区民が求める子供の居場所とは一体どういうものなのか、そして地域によって求めることが違うんじゃないのかというような意見が第3部会の委員のほうからたくさん出ました。それについて、どういう取組をしていったらいいのかということがちょっと具体的に私たち発信ではなかなか分からないということで、できれば自治協全体での勉強会をやってみてはいかがなものかということが議題に上がりました。その地域、地域によって問題点が違う、小さいお子さんの居場所を求めているところもあれば、高校生、中学生の勉強の場が欲しいところもある。いろんなアンケートを行ってみて、そして勉強会というものを開催してはどうかというご意見が出ましたので、この場で皆さんにお話しさせて

いただきました。

また、今後の事業なんですけれども、講演会、トレッキング、もち麦につきましてもほかの産業振興課ですとか、そういうところとタイアップをしたり、トレッキングについては今現在進行中の計画がございますので、それを進行していこうということでまとまっています。よろしくお願いいたします。

(中島会長)

佐々木部会長、ありがとうございました。

では、広報部会、森田委員です。お願いします。

(森田委員)

広報部会の森田でございます。広報部会を先日行った報告を少しさせていただきたいと思えます。

今年の広報の大体雑駁な活動を協議いたしました。今回5月から7月の3か月間のエフエム新津の出演者の関係なんですけど、従来ですと今日各部会に対して出演者の要請をするというのが流れであったんですけども、我々の評価、反省の中でちょっとパターン化してしまっている状況を少しでも変えたいなということで、5月には4月の27日に防災講演会が青木部会長の下で行われます。その下で防災の講演に関して、4月に第2部会の委員、今日欠席しています村上委員にお願いをしようかなと思っていたんですけど、今日欠席なので、後で要請をしたいなと思えますけど、あと広報の私のほうから出たいなと思っております。

5月のエフエム新津の出演に関しては、全体の新任の研修が防災一色なんです。できれば6月の出演に関しても第2部会の青木会長と、それから新たに山崎委員が新任として一緒に同じ地区から出ておるということで、ぜひお二方の出演をお願いしたいなと。決定ではございませんけども、2部会で検討していただきたいなと思えます。

あと、7月ですが、春の振り返りということで3か月たつ状況であります。小須戸からは板井さん、小合からは今井さんとか、新たな女性の委員が来ていただいておりますので、その方々の出演ができないかなと思えます。それは、今回ちょっとエフエム新津のパターン化という内容はライブ的に現場の話を知るとか、女子会などをちょっとしてもらったらいいいですね、そういうところにおいてこの協議会の知名度が少しでも上がるような楽しいエフエム新津の放送になればいいなと思っております。これは一つの提案でございますので、後で事務局からの調整があるかなと思えます。

以上がエフエム新津の出演に関しての話でした。

あと、広報の「あきはくはつものがたり」発行事業が今年もお願いするわけでございま

すが、予算の関係でやはり2回の発行ということでまた皆さんからの協力をお願いしたいなと思います。

あと、昨年ホームページ等に各事業の広報委員がレポートを出して広報という形でやってもらいましたが、今年も一生懸命ちょっと頑張ってください、広報委員の皆さんからの協力をひとつお願いしたいなと思っています。

以上です。

(中島会長)

ありがとうございます。

ほか。はい、では加納委員ですね。第1部会でございます。

(加納委員)

第1部会の加納です。本年度もきらめきサポートプロジェクト、未来ビジョンプロジェクトということで募集の案内が4月21日に新聞折り込みで皆さんのところに届いていたかと思いますが、こちらのほう第1部会だけではちょっと人数的にも不足というふうな形で例年お手伝いをお願いしておりますので、本年度もまたお願いしたいと思っております。

それと、広報部会の森田委員の先ほどのご意見、すごくいいなというふうにお聞きしておりました。実を言いますと、4月の10日に私と中島会長、それと田中委員、3人でエフエム新津さん出演させていただいております。今までの形の個々にエフエム新津さんのアナウンサーと対話といいますか、問いかけに答えていくというふうな形じゃなくて、3人での会話というふうな形で、対話というふうな話でやっております、すごく気持ち的にもリラックスしてやっていけましたので、この形引き続けてもらえたらいいなというふうに感じましたので、そういう形をお願いしたいなというふうに思っておりました。よろしく願いいたします。

以上です。

(中島会長)

ありがとうございます。

では、青木委員、お願いいたします。

(青木委員)

第2部会の青木でございます。終わったことを1点、それからもう一点、皆さんにお願いしたいということで1点、2点お願いいたします。

まず1点、終わったことなんですけども、4月の17日に今度土曜日に予定しています防災講演会の諸準備ということで、文化会館におきまして部員の方からご苦労していた

だき、ありがとうございました。今度皆さんにお願いでございます。防災講演会、4月の27日土曜日でございます。これ自治協主催でやりまして、当日区長さんから挨拶いただいて、その後2人の方から講演していただく予定でございます。まず、1人目が国土交通省北陸地方整備局の阿賀野川の河川事務所、ここにおられます建設専門官の乙川昌也さん、この方からおおむね1時間、河川洪水の備えと、これについての講演をお願いしてございます。2人目ということで、新潟市の防災士の会秋葉支部の広報部長をしておられますサイトウケンサクさん、この方から地震など自然災害に対する心構えと、こういうのを講演を予定してございます。そんな関係でおおむね1時間半予定しております。もちろん事前の予約等は必要ありませんので、当日一人でも多く来ていただきたいなど、そんなふうを考えております。なお、当日第2部会では手が足りないということで、第1部会の方、第3部会の方からもご協力いただいてやる予定なんで、よろしく願いいたします。

以上でございます。

(中島会長)

ありがとうございます。第2部会からのご報告とご案内、そして講演会の協力のご案内でございました。

ほかにございますでしょうか。よろしいですか。

あと、先ほど話に出ましたけれども、コミュニティ未来ビジョン部会、こちら令和5年度をもちまして部会としての役目は終わりました。今後は、第1部会のきらめきサポートプロジェクトにおいて引き続きまして、第1部会のほうでコミ協への支援を行ってまいります。ただ、第1部会も本当に人手が限られておりますので、ぜひコミ協選出の第1号の皆さんにおきましては今年度も第1部会と一緒に連携して未来ビジョンに関わっていただければと思います。どうぞよろしくお願いいたします。よろしいでしょうか。

4 その他

(中島会長)

それでは次に、次第の4「その他」でございます。

まず、新年度1回目の会議でございますので、長崎区長よりご挨拶をお願いいたします。

(区 長)

皆様、大変お疲れさまです。区長になりまして今年で3年目が始まりまして、正月の能登半島地震からその対応が多かったわけですが、ただ昨年新型コロナウイルスが

感染症法上5類になってからは、コロナ前にいかに戻すかということに地域経済、そして社会、市民活動の力点はきているというふうに思っております。そんな中で、この後私のほうから資料に基づいて令和6年度の秋葉区の方針について3分、5分ほどご紹介をさせていただきたいと思っております。よろしくお願いをいたします。

それでは、座って説明をさせていただきます。お配りしましたのは、令和6年度秋葉区地域コミュニティ協議会総会区長配付資料というものでして、先週の土曜日から11コミ協の総会が始まりまして、土日で3地区回ってお話をした中で、挨拶ですので限られた時間ですから、資料だけ配付という形で各地、今、回らせていただいているところです。中身につきまして、若干お時間いただきましてお話をさせていただきますと、令和6年度方針につきましては秋葉区だよりの4月7日号の1面のところでその考え、思いは伝えさせていただいているところです。テーマとしましたのは「災害に強く、こども真ん中の秋葉区づくりへ!」ということでした、先ほど事業説明をしましたが、今年度の秋葉区区役所が行う取組につきましては、この2つの言葉を中心に進めたいと思っております。

若干中身をお話しさせていただくと、1枚はぐっていただきまして、秋葉区の課題、取組ということで人口減少、産業力のところを見ていただきたいと思います。先ほども市長からお話がありましたが、人口は長期的に減少傾向になっているという中でいいますと、秋葉区については右側の2025年、7万1,519と書いてありますけれども、今年につきましては7万4,000ということですので、そこまで予測のように下がっていかないということが見てとれます。昨年、1年前も7万5,071人という数字でしたので、1年間で約600人が減るような状況ですから、そこまでの急減ということではないという状況です。ただ、そのオレンジ色を見ていただきますと、いわゆる高齢世代というのは2050年までほぼほぼ変わらない数字になっているのに対して、15歳から64歳といういわゆる現役世代、働いている方々が約4割減る状況です。そして、その下になりますけれども、生産年齢人口は3割減るのに対して、子供たち、15歳未満は4割減るという数字が出てきております。高齢世代は変わらない数字が推移していくのに対して、現役世代と子供たちが減っていくという状況があります。

そういう状況の中で、子供たちないしは働く世代を取り込むために産業力、いわゆる企業誘致ないしは働く場の確保ということが課題ということで書かせていただいております。さらには、その下の段になりますけれども、地域コミュニティ、昨年未来ビジョンをしていただきましたが、その中で拾っていきますと、特に若い世代の愛着あるいは地域に対する接点が薄まっているというのが、皆様方自治協が実施しました幸福度調査

から見てとれるというふう感じております。そうしますと、先ほどの働く世代あるいは子育て世代というところにいかに接点を持っていくのかというその施策が必要なんだというふうに考えております。上の段もそうですけれども、右下のほうに、これは取組の幾つかを書かせていただきましたが、事業を書かせていただいている中で、未来ビジョンというものをやはり実現に結びつけていくのが課題だろうと思っております。

また、子供たちの声、若者の声を事業に反映するために、昨年、一昨年と中学校に出向いて意見交換をさせていただいておりましたが、やはりそういう場に出ている言葉の中で、特に移動、公共交通を何とかしてほしいと、これは金津の未来ビジョンで出ていた言葉ですけれども、それに基づいて区としては路線バスの100円化をこの6月1日から実施することにしたということでございます。

また、子供の居場所については、部会のほうでもお話をいただいておりますけれども、やはり多くの地域で求められているということがありました。中学生、高校生からは自習室あるいは受験勉強をする場所ということでしたし、小学生につきましては土日ですとか天気の良い日に行ける場所というようなお声をいただきました。後ろのほうに11コミ協の未来ビジョンのまとめをつけておりますので、後ほど見ていただきたいと思います。その中で居場所につきましては新津高校の校長先生からぜひ中央コミ協での意見のありました地域交流センターの1階を使わせてほしいという要望がありましたので、新津高校の生徒会と今話をしまして、5月の24日にワークショップを今する予定をつくっております。地域交流センターの1階の広場で5月24日の4時半からになりますけれども、約1時間半高校生、そして第一中学校にも今話をしていますので、中学生も来るものと思っておりますけれども、まさに子供たちがどういう居場所を求めているのか、大人が考えるのではなくて、子供が実際に声を発してもらいたい、そしてできればルール化、あるいはその使い方についても子供たちに関わってもらいたいと思って相談をしております。中央コミ協さんからも参加をいただく予定にしております。

そういう現状、課題、そして取組の中で、2枚目以降はこれまでも幾つかのところでお話しさせていただきましたが、各コミ協単位での人口推移をつけさせていただいております。これは、昨年地域懇談会で使わせていただいたものを掲示しております。赤い数字が人口が減っている状況が見てとれますし、右下の2につきましても、昨年もお話をしたと思っておりますけれども、小中学校でのコミュニティ・スクールも今年で3年目に入りましたが、ほかの区に先駆けて秋葉区では取組を進めていたというところでありました。それに対して、昨年未来ビジョンを併せてやることができましたので、どの地区においても小中学生、高校生、大学生も加わったところが幾つかありましたけれども、それらの

意見に基づいて、今各コミ協でビジョンの具体化、実現化に向かっていただいているという状況でございます。

最後に、その裏面、3の子供たちが自ら考え、自ら未来をつくることができるようにという、これはある意味私の思いですけれども、3年前の教育懇談会から使わせていただいているフレーズになります。もともとこれは、文部科学省が学校教育改革で小学校で総合的な学習、そして中学校で探究学習、高校でも探究の時間というものを設けるに当たっての基本的な考え方をこの1と2に書かせていただいております。主体的に考える、自ら取り組むということを書かせていただいております。ですので、未来ビジョン実現についてもコミュニティ・スクール活動で取り組んでいることが何よりも盛り上げることにつながりますし、さらには子供たちが自ら考えて、自ら未来をつくることができるようにという、先ほどの地域交流センターの1階の居場所もそういう形で取り組みたいと思っております。

それ以外の資料については、区だよりですとか、あるいは未来ビジョンのまとめですので、後ほど見ていただきたいと思いますけれども、同じこの資料については11コミ協の総会で私から挨拶に併せてお話をしますし、先週は区内の小中学校長、中学校長の皆さんにも同様のお話をさせていただき、今後は民生委員・児童委員の全体研修会でもこのお話をさせていただきますし、区の職員向けにも研修をさせていただきます。もちろん小中学校のPTA連絡会でもお話をしますので、同じ目線で秋葉区が災害に強く、こども真ん中の秋葉区づくりが推進できるように、関係者が同じ方向で取り組めるようにとお話をさせていただきますので、自治協の皆様からどうぞご理解とご協力をお願いしたいと思います。

私からは以上になります。

(中島会長)

ありがとうございます。ご挨拶と言いましたけれども、本当に我々秋葉区自治協議会に向けての年度始めの所信といったようなお話の内容だったと思います。まさに秋葉区づくりの一丁目一番地、子供、子育て、そして若者支援ですね。我々も前向きに協働連携を図って推し進めていけたらと思います。よろしいでしょうか、特にこの件で。

(委員自己紹介・所属長等自己紹介)

(中島会長)

そのほか委員の皆様から何かございますでしょうか。連絡事項でも、あっ、さつきちよ

つと言い漏らしちゃったんだけどもみたいなのがありましたらお受けいたしますけれども、よろしいですか。

なければ、私から1点ございます。新しい顔ぶれを迎えまして、昨年度回数懇親会を開催いたしました。去年本当に楽しい実りのある会ではございましたけれども、ちょっと反省といいますか、お子さんを持つ女性の方々なかなか出づらかったんじゃないのかなというふうに思います。どうしても夜の開催だとなかなかお子様のこと、ご家族のことがあって参加しづらい状況だったかもしれません。そこで、今年度の提案でございます。女子会、ランチ会、オフ会、昼間の活動を、昼間健康的というか、何言っているんでしょう、計画してみてもどうでしょうか。昼にぜひ開催して、新しいメンバーの方ぜひ交流していきたいなと思っております。こういうことは、もう大貫副会長に任せるしかありませんので、大貫副会長に幹事役務めていただいて進めていただくことを希望しております。よろしいでしょうか、皆さん。よろしく願いいたします。

それでは、今日の本会議以上となります。

それでは、進行を事務局にお返しします。